



和氏之璧

## 春秋戦国時代の友情 (官鮑の交り①)

11月①のごあいさつ

山内公認会計士事務所  
2022年11月1日(火)

史記に登場する人物は四千人にのぼると言われている。

そして史記には人と人との人間関係が濃縮して収められている。数千年前の生き生きとした人と人との人間関係は現代までも続いていると思える。

春秋の覇者、齊の桓公を補佐した名宰相管仲とその親友鮑叔の交友は「管鮑の交り」と言われ、故事として伝えられている。

官仲は齊の潁水のほとりに生まれた。

鮑叔とは幻な友達で、二人は何をやるのもいつも一緒だった。

その頃から、鮑叔は官仲の人並み優れた才能を見抜いていた。官仲の家は貧しく、そのため彼はよく商売をして鮑叔をだました。しかし、鮑叔は苦情一つ言おうとせず、最後まで友情を捨てなかった。

やがて、鮑叔は齊の公子小白(後の春秋の覇者、齊の桓公)の後見役となり、官仲の方は敵方の公子糾の後見役となった。

そして小白が即位して桓公となった結果、君位を争った公子糾は殺され、官仲は囚われの身となった。

そのとき鮑叔は、官仲を登用するよう桓公に進言した。紆余はあったが、官仲を宰相に迎えたことにより、桓公は覇者になることができた。

諸侯を糾合し、天下を一つにまとめることができたのは、全て官仲が腕をふるったからである。

後に、官仲はこう述懐している。

「私は、昔貧乏だった頃、鮑叔と組んで商売をしたことがあった。儲けを分ける段になって、私の方が余分にとったが、鮑叔は私を欲張り呼ばわりしなかった。私が貧乏なのを知っていたからだ。また、彼に名を成さしめようとして計画したことが、かえって彼を窮地に陥れる結果になったが、彼は私を愚か者呼ばわりしなかった。物事は上手くいく場合とそうでない場合があるのを心得ていたからだ。」

「また、私は幾度か仕官して、その度にお払い箱になったが、彼は私を無能呼ばわりしなかった。」

また、私は戦に出るたびに逃げ帰ったが、彼は私を臆病者呼ばわりしなかった。私には年老いた母が居るのを知っていたからだ。

私を生んでくれたのは父母だが、私を理解してくれたのは鮑叔だ。」